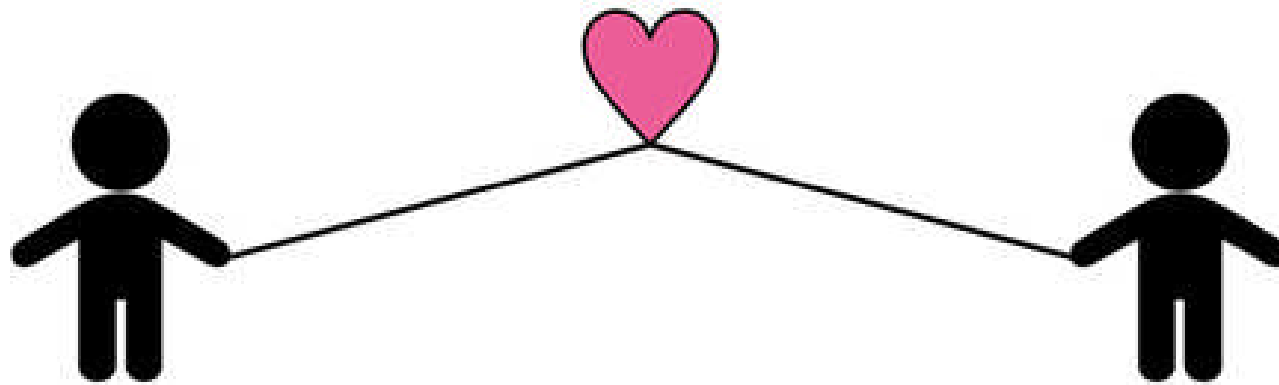


絆で育む地域防災

~ KTB42政策 ~



大阪国際大学 「ひと・まち・であう」プロジェクト

発表者 根岸 昂生

アシスタント 坂元 悦子

メンバー 福田 龍太

松田 達磨

テーマ選定の理由(趣旨)

・なぜ防災を選んだか？

- >>大学が位置している校区での防災の取り組みや東日本大震災のボランティア経験により、防災への取り組みの重要性に気づかされた

・地域防災力とは？

- >>自助・共助・公助の3つからなっている
- >>地域防災力を向上させると被害が少なくなる



地域防災力の向上 減災

京田辺市の現状(地域防災問題の諸相)



木造建築が多い

倒壊・火事の危険性あり！



倒壊

震度6弱～7の地震(生駒断層)が起こると

京田辺市

全体・約25000棟



全壊・約32%

半壊・約29%

枚方市

全体・約97577棟



全壊・約7%

半壊・約18%

全壊する多くはs56年以前の旧耐震基準により
建築された**木造建築**であることが推定される

参照:京田辺市建築物耐震改革修促進計画 ・おおさか防災ネット

火事

阪神淡路大震災

神戸市の3地区(長田区・中央区・東灘区)
310世帯では

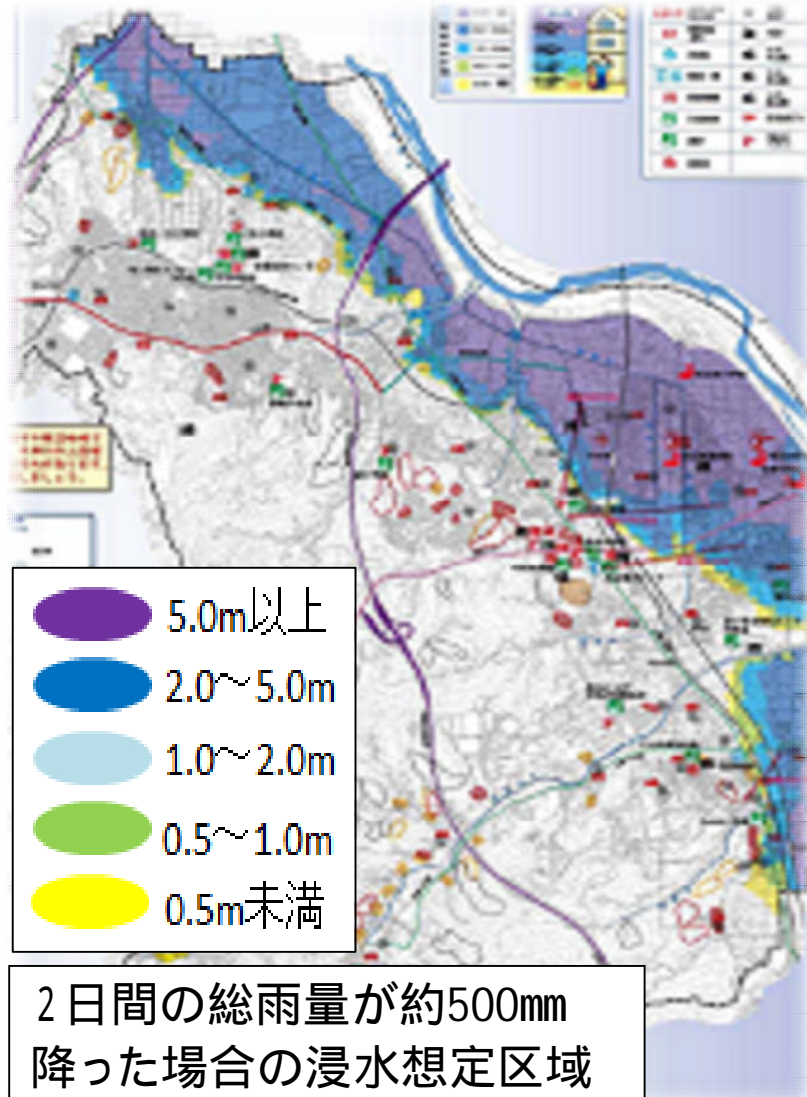
全壊・全焼は119世帯(38.4%)

半壊・半焼は104世帯(33.5%)

全壊・全焼を住宅の種類別にみると、
木造建築が107軒(約90.0%)
と圧倒的に多い

参照:「阪神淡路大震災 はや5年もう5年」

大雨被害を受けやすい



京田辺市や周辺地域で大雨が降って
なくても、木津川の上流域での大雨によ
り洪水が発生する恐れがある。

土砂崩れが起こると予想されている場所は
約38ヶ所あるとされている

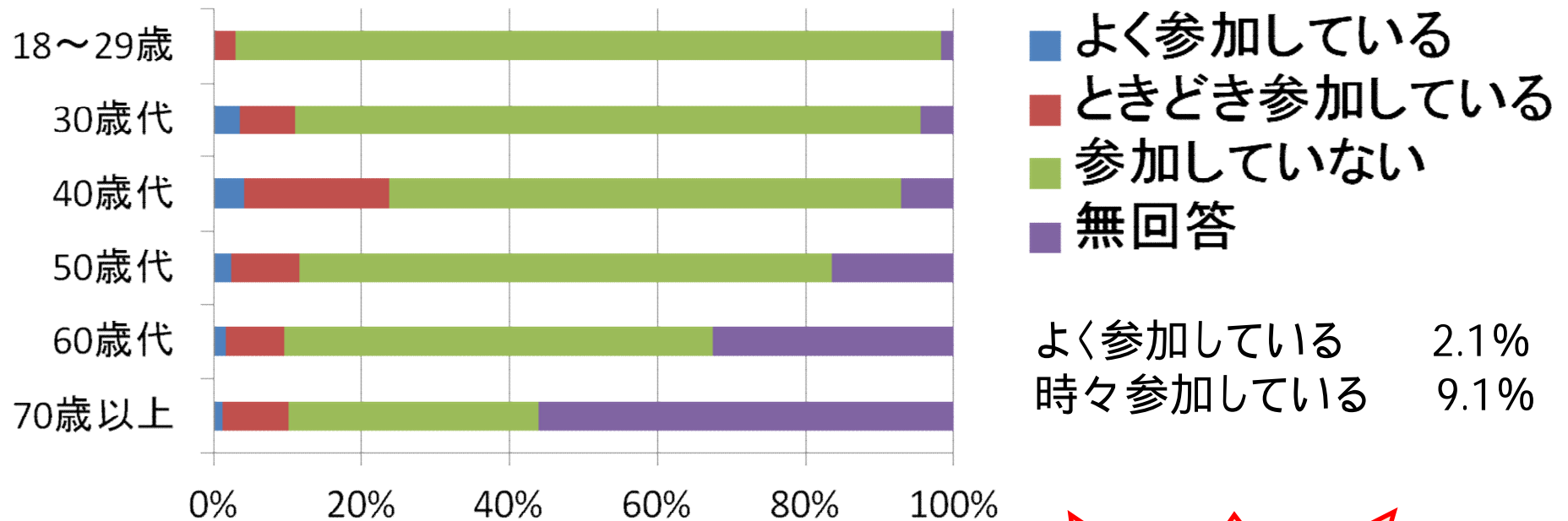
被害者数 現在、市が調査中
(洪水の場合はあらかじめ到達時間が想定
できるため、被害は小さいだろう)

浸水地域は全42自治会中、
24,25自治会に及ぶ
(5mの浸水は一般の家の約2階の軒下まで浸かる)

浸水・土砂崩れ

防災意識が低い

年齢別防災・防犯等の活動参加状況



防災や防犯等の活動参加率(全世代)は、
男性 11.4%
女性 11.0% であり、男女共に1割程度

防災・防犯の活動に参加する人があまりいない

参照:「京田辺市地域福祉に関するアンケート調査」

京田辺市と枚方市の比較考察

防災マップの策定
を比較すると

1/42

自主防災組織を設置している地域

天王自治会の例

住民全体での避難訓練
資機材倉庫の設備
防災パトロール

15/45

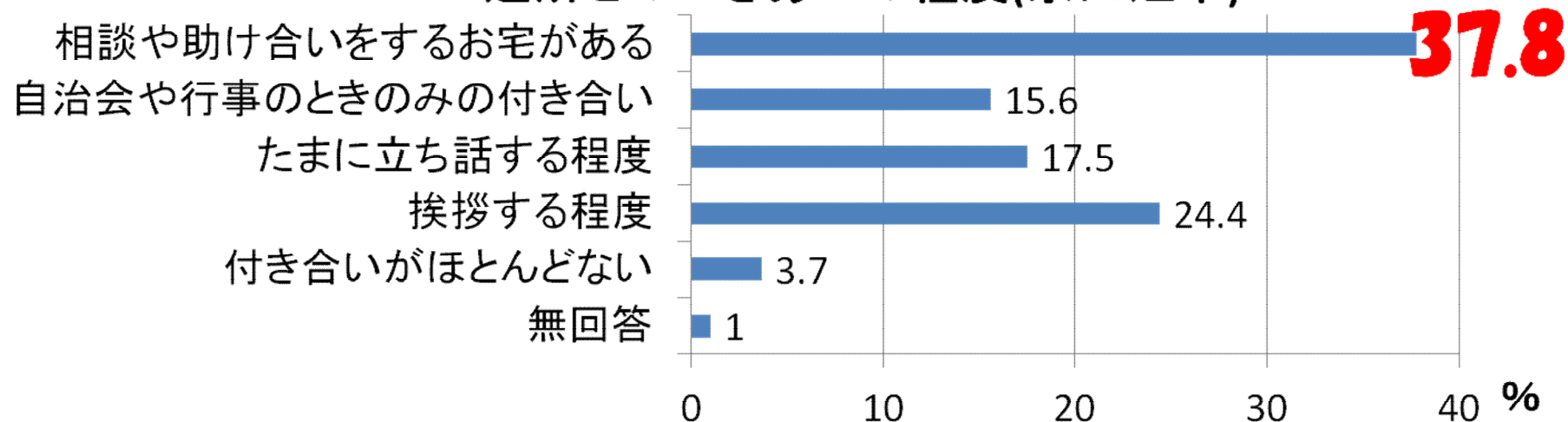
菅原東校区の例

住民全体の防災訓練
資機材倉庫の整備
住民への啓発活動



共助の意識も低い

近所とのつきあいの程度(京田辺市)



参照: 京田辺市地域福祉に関するアンケート調査報告書

近所付き合いの程度(全国調査 2011)

	よく付き合い ている	ある程度付き 合っている	あまり付き 合っていない	全く付き合い ていない	わからない
大都市	15.0	47.8	29.1	8.0	0.2
町村	23.8	52.4	18.4	5.4	0.0

参照: 内閣府「社会意識に関する世論調査」2011年

課題設定



着目点



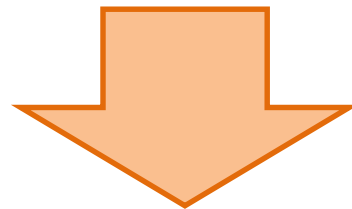
今回は**自助・共助**(住民の意識)に着目する

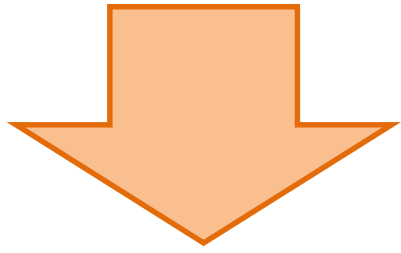


本来は自助・共助・公助全てを
完璧にすることが減災に繋がる



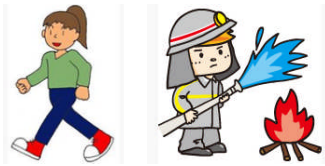
なぜ公助を切り離して自助・共助に着目するのか？





～ の問題点のそれぞれの対策、また、
自助・共助・公助のどれが適しているのかを考えてみた。

木造建築 改築(耐震化)



日頃の防災への取り組み
自主防災組織の構築・活動の活性化
地域の防災情報の共有



大雨による被害 遊水池の設置



助け合いの意識
近所づきあいを活発にする
協力関係の醸成



住民の防災への意識
防災への意識を把握し啓発

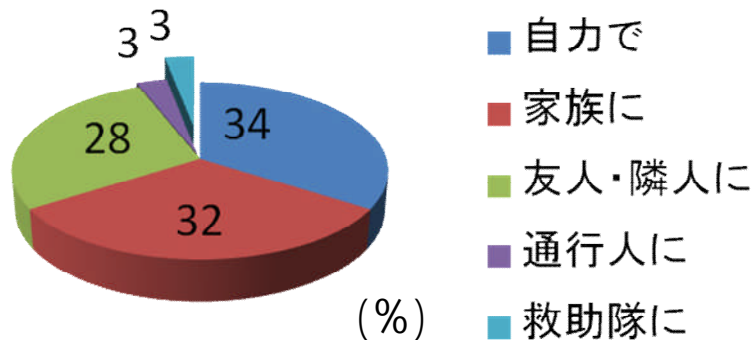


自助・共助が多くに含まれている

過去の震災の検討結果を踏まえて

H7.1.17 阪神淡路大震災

生き埋め・閉じ込められた人の救助を行った割合



参照:「1995年兵庫県南部地震における火災に関する調査報告書」

H23.3.11 東日本大震災

釜石の奇跡

津波による死者・行方不明者が1000人を超える岩手県釜石市の小中学校で、日常の防災教育が徹底していたことから、発生時に学校にいなかった5人は被害を受けたが、中学生が小学生を的確に誘導し、小中学生は2921人、児童の**99.8%**が無事に避難をした。

阪神・淡路大震災、東日本大震災のデータ、実例より

自助・共助が重要である。
日常から住民の**防災意識**、
助け合いの意識を向上させる
ことで自助・共助が培われる。

住民の意識
を上げると...

減災

そして...

略して **KTB42** 政策



1・・・イベント事に防災活動を少しずついれるのだ作戦

2・・・スタンプラリー大作戦

1. イベント事に防災関連を入れ込む

多くの住民、幅広い年齢層が集まるイベントに防災を取り入れる事で、楽しく**防災訓練**が出来る。

(ex: 市民運動会で考える)



運動会の中で防災に関する競技を行うことにより防災に関心がない人でも、自然に**防災訓練**を行える。
(意識の向上にも繋がる)

競技内容はどの年齢層の人でも一緒に出来るものにする事で、**世代間交流、住民同士の交流**にもなる。

プログラム(例)

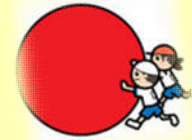
< 午前の部 >

- 9:00 開会式
- 9:15 準備運動
- 9:30 玉入れ
- 10:00 **バケツリレー**
- 10:40 大玉ころがし
- 11:15 **昼休み**
(炊き出し)



< 午後の部 >

- 12:30 **応急手当**
- 13:00 障害物競走
- 13:30 綱引き
- 14:10 リレー
- 14:50 **借り物競争**
(防災グッズの利用)
- 15:30 **ミニ消太くん**と記念撮影
- 16:00 閉会式



この様に、運動会に防災訓練を少しずつ入れることにより防災意識への啓発に繋がる

地域住民の防災への意識UP

2. K T B スタンプラリー

K T B

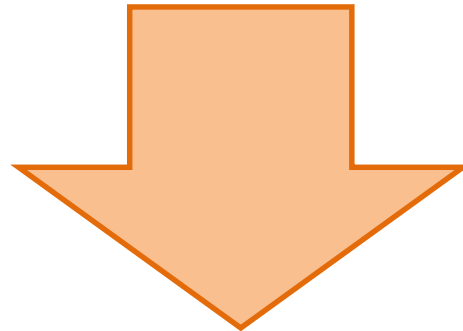
K(気づき) T(繋がる) B(防災)
Kきょう(京) Tたな(田) Bべ(辺)

年に1回京田辺市(同一避難所単位)でスタンプラリーを実施(防災訓練)

内容

防災マップを手にして、避難所に指定されている小学校に集合し、給水所やAED設置場所、資機材倉庫などをまわって小学校に戻る。

そして、参加者に炊き出しの提供



ゴール地点(避難所)では...

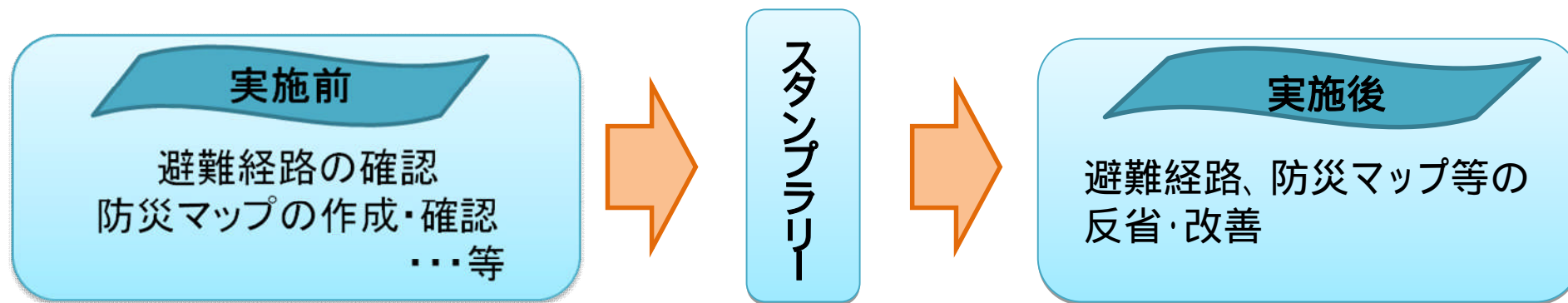


1. 受付でスタンプを見せる(何か防災グッズと交換)
2. 起震車で地震を体験
3. AEDの体験
4. 炊き出しを頂く(アルファ化米や豚汁)

1日楽しかったネ



KTBスタンプラリー実施によって



KTBスタンプラリーの狙い

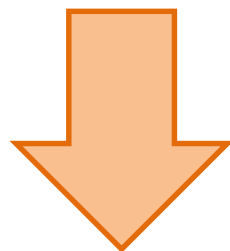
自分のまちをもう一度見直すきっかけになる
地域に住んでいる人を改めて認知する機会になる
災害発生時の対応を確認することができる

防災訓練、防災意識の啓発になり**自助**に繋がる。
また、地域に住んでいる人を認知し
コミュニケーションをとることで、**共助**に繋がる。

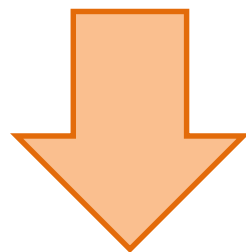
フィールドワークを行った時、田辺団地連合自治会の会長、郡さんは、「是非実施したい」とおっしゃっていました

通学(通勤)者における防災対策

京田辺市には昼間多くの学生・教職員が集まる



昼間に震災が起こった場合、
学生・教職員も被災者になる可能性が大いにある



そこで、日頃から学生・教職員も防災に対しての
意識啓発を行わなければならない

活動の感想

菅原東校区の方々からの感想

共にDIG訓練・防災マップ作成によって、**大学という資源がある事を地域住民として改めて認識した。**

応急救護所として大学が指定されているが、**避難所としての連携(ハード面)大学生の機動力(ソフト面)に期待する。**

若い子のパワーと新鮮さがもらえた。

活動による学生・教職員の気づき

通学するだけでなく、地域の方からいざというときには**期待されている存在**であると改めて認識した。

防災や福祉に関する知識が深まり、**地域の仕組みが少しわかり出した。**

学生にも地域にもメリットがある



まとめ

住民の防災意識・助け合いの意識の重要性

今まで防災活動に関わってこなかった方が
楽しみながら防災活動を行えるような、イベントの企画

京田辺の資源(学生)を活用したまちづくりの重要性

・・・以上

ご清聴ありがとうございました